

特集 多摩のうごきを知る

多摩地域発ロボットと歩む食産業の未来

SOCIAL ROBOTICS 株式会社／コネクテッドロボティクス株式会社

飲食店などの外食産業や、惣菜・デリなどを取り扱う中食産業は、私たちにとって身近であり、生活を支える重要な産業だ。一方で、食産業は労働環境にさまざまな課題を持ち、働き手の不足が進んでいる。こうした状況の改善策の一つが、ロボットの活用である。今回は、食産業に関するロボット開発を行う企業2社に話を聞いた。

食産業でのロボット活用を目指して

社会構造の変化や技術の発展に伴い、多種多様なロボットが次々と開発・製造されている。近年はロボット掃除機や店員に代わり配膳を行うロボットなど、生活に身近なところでもロボットが活躍する光景を目にするようになった。特に産業の場面においては、人手不足の軽減や業務効率化の促進を目的に、工場や店舗などでのロボット導入を進める動きがみられている。

今回は、多摩地域で食産業ロボットの開発・製造を行う2社へインタビューを行った。食産業は飲食店も工場も、ともに深刻な人手不足が続いており、ロボットの導入は人手不足の解決策の一つとして挙げられている。今回話を伺った2社では、こうした食産業が抱える社会課題を解決に導きたいとの思いを持って、ロボット開発に取り組んできた。成長著しいロボット業界の中で、各社ではなぜロボットの開発に至り、この先どのような未来を描いているのだろうか。



SOCIAL ROBOTICS の配膳ロボット「BUDDY」

国産配膳ロボットで飲食店を手助け ／ SOCIAL ROBOTICS 株式会社

まず紹介するのは、八王子市の SOCIAL ROBOTICS 株式会社だ。同社が開発・製造する製品は、主に飲食店で来店客に食事や飲み物を運ぶ、配膳ロボットである。2015年に創業した同社は、同じ八王子市の株式会社菊池製作所のグループベンチャー企業の一つである。

福島県に工場を構える菊池製作所では、東日本大震災以降、さまざまな形で復興支援を行ってきた。その一つが、東京大学と共同で進めてきたロボットの事業化を目指すプロジェクトであり、そこからスピンアウトして創業したのが同社だ。代表取締役の^{あさのしげる}浅野氏は、大学院在学中に同社の創業メンバーとなり、2019年に代表に就任した。

同社の配膳ロボット「BUDDY」には優れた免震機能が搭載されており、他社の配膳ロボットに比べて、飲み物を揺らさずに運べるのがアピールポイントだ。また、「BUDDY」は開発と製造を全て日本国内で行っており、各社の配膳ロボットの中で唯一の国産ロボットである(2024年12月現在)。

配膳ロボットの開発に着手したのは、浅野氏が福島で偶然入ったラーメン店で、広い店内を店主が一人で切り盛りする様子を目にしたのがきっかけだ。当時福島では震災の影響で休業している飲食店が多かったこともあり、ラーメン店には多くの客が来店し、テーブルには食後の皿が積み重なっていた。この光景を見た浅野氏は、飲食店での活用に向けた配膳ロボットの開発に本格的に動き出すことを決めた。

そこから始まった同社の配膳ロボットは、数々の実証



優れた免震機能により崩れやすい料理や飲み物も運ぶことができる実験を経て改良を重ねてきた。現在は大手チェーン店での導入を目指して、大手代理店と取扱いに向けた協議を進めている。配膳ロボットの飲食店導入においては、最先端技術を使うことよりも、いかに現場に適した実用的なロボットであるかが重要だと浅野氏は言う。

多くのベンチャー企業と同様に、同社でも資金力や雇用などの課題を抱えており、開発や製造は、菊池製作所や外部エンジニアなどと連携して行なっている。また大手企業ほどに資金を投じて製品試験をすることができない現状を前に、納品先である店舗ごとの環境条件に適した技術レベルの選択や調整など、苦労も失敗も数多く繰り返してきた。実績が少ないうちは納品の直前まで、その時々にかかるエラーやバグに一つ一つ向き合って対処し、解決法を見出しながらデータを蓄積していった。特に直近1年間の蓄積は大きく、ようやく自信を持って納品できる状態まで達したという。

同社が大事にしてきたのは、製品の先にいるユーザー視点でのロボットづくりだ。搭載する技術は、広く使われており信頼性が高く、かつ価格を抑えたものとするにこだわった。特殊で高価なイメージがあるロボットだが、民間企業で営業経験を持つ浅野氏は、あくまでも日常的に使う機器であるという感覚を根底に持って開発



SOCIAL ROBOTICS 株式会社
代表取締役 浅野滋氏

してきた。一般の飲食店が手に届く価格に、というコスト意識は当初から強く持ち続けている。

「BUDDY」は飲食店以外にも、工場や病院などでの活用を想定しており、いずれは事業化も視野に入れている。そうなれば、大規模な工場や

病院、介護施設などが多く集まる多摩地域は、同社にとって潤沢なマーケットにもなり得る。貴重な国産ロボットを広めていくために、福島、そして多摩地域から飛躍を目指す。現在国内で活躍する配膳ロボットの多くは中国製で、近年技術力を高めている中国製の製品は、高品質・低価格のものも多い。浅野氏は、「当社のロボットを飲食店で普及させるのはもちろん、中国製ロボットがなかなか参入できていない病院や工場で新たな使い方を模索していきたい。ロボット大国と言われる日本に、国産ロボットを増やしていけるよう、しっかりと骨組みを作っていきたい」と話す。

惣菜盛付ロボットで工場に革新を ／コネクテッドロボティクス株式会社



惣菜工場の製造ラインに設置された「DELIBOT」

次に紹介する小金井市のコネクテッドロボティクス株式会社は、2014年に創業した食産業向けのロボット開発に注力する企業だ。50名ほどの社員がいる同社では、ロボットのソフトウェアやシステム設計に長けた人材が多く、海外出身の社員も在籍している。

代表取締役の沢登哲也さわのぼりてつや氏は、ロボティクスと食産業、そのどちらにもキャリアを持つ。大学院でロボットの制御を含む情報科学を学んだ後、キャリアを積んでいずれは起業したいと考えていたという。元々自身の祖父母が飲食店を経営していたこともあって飲食業に興味を持ち、まずは飲食チェーン店に飛び込んだ。そこで感じたのが、体力的にも精神的にも大変な仕事であるにも関わらず、それに見合った賃金が支払われず、慢性的な人手不足が続くといった飲食業が抱えるさまざまな課題であった。この経験が食産業の持つ課題への理解を深めるきっかけとなり、起業の原点にもなっている。その後、ロボット関係のエンジニアとして経験を積み、コネクテッドロボティクスを立ち上げた。

同社のビジョンは、「辛い仕事をなくす」「人手不足を



コネクテッドロボティクス株式会社 代表取締役 沢登哲也氏
解消し生産性を向上」「美味しく健康な食品を提供する」の3つである。これらのビジョンは労働者、経営者、消費者それぞれの目線に基づいたもので、さまざまな視点から食産業全体の課題解決を目指している。

創業当初はたこ焼きやソフトクリーム、そば、フライドポテトなどを製造する外食向け調理ロボットを手がけてきた。その後、コロナ禍を経て中食の需要が高まり、製造現場の労働環境の課題が深刻化したことを受けて、食品工場向けのロボット開発へと軸足を移した。特に惣菜などの中食産業は、扱う商品が多岐にわたり、食材の形態や量などが一定でなく、作業の大部分を人間が担う必要がある労働集約型の産業だ。沢登氏は、こうした労働集約型の食産業に革新を起こそうと、惣菜の盛付自動化ロボットの開発に着手した。

およそ半年間の開発期間を経て、2021年に登場した「DELIBOT」は、主にスーパーやコンビニ食品の製造ライン向けに展開している。開発は地道なデータ収集と分析を基盤とし、食品ごとの特性を反映したロボットハンドの設計とロボットコントロールに力を入れて取り組んだ。ポテトサラダなど柔らかく形の定まらない食品の盛付は高度な技術が求められるため、AIやセンシング技術を駆使し、惣菜の盛付を行うことのできる唯一無二のロボットを作り上げた。実際に導入されている大手スーパーの工場からは、ロボットの仕事ぶりに驚かれたり、ロボットに愛着を持ってもらえたり、良い反応があったという。現段階では、大手スーパーの工場が主な販売先であるが、将来的には工場の規模に関わらず、食産業全体で導入できるような汎用性の高いロボットの開発を目指している。

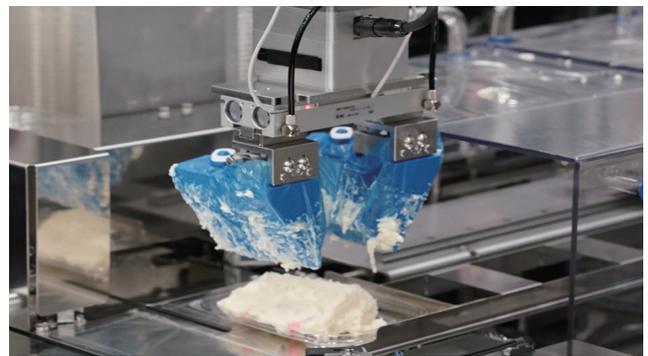
より良い製品をつくるには、会社の枠を超えたつながりも重要だ。大学や企業が集積する多摩地域でロボット開発をすることについて、沢登氏は次のように話した。

「多摩地域には高い知識を持つ優秀な学生がたくさん育ち、製造業の歴史もあります。人材が確保しやすく、産学連携や企業間の連携も取りやすい。また、ロボット開

発に必要な広い土地が確保できるということも大きなメリットだと思います」

同社では大学生のインターンシップを積極的に受け入れており、中にはそのまま卒業後に社員として入社する学生もいるという。

ロボット業界の中でも惣菜の盛付ロボット開発に参入している企業は少なく、さらにスーパーやコンビニの工場への実装までを実現している企業は、世界でもほとんどないという。食産業にはまだまだロボットの導入を広げる余地が残されている。同社でも農業や水産業をはじめ第一次産業で活用できるロボットなど、食に関わるあらゆる産業のロボット開発を視野に入れ、日々技術を磨き続けている。



試行錯誤を経て開発したロボットハンドが惣菜を自在に操り盛り付ける

広がる食産業の未来

今回紹介した2社は、食産業が抱える課題の解決を目指し、ロボット開発に取り組んできた。食産業におけるロボット導入や活用は、自動車産業などに比べると進んでおらず、その分この先ますますの発展が期待されている分野だ。どちらの企業も、多摩地域の強みである製造業の集積によるネットワークや、さまざまな大学や学生との共創、都心とも地方とも違う特長を持った立地などを存分に活かしたロボットづくりを通して、食産業に新たな変革をもたらそうとしている。

(畑山若菜／編集：野村智子)

SOCIAL ROBOTICS 株式会社

東京都八王子市美山町 2161-21 (株)菊池製作所内

コネクテッドロボティクス株式会社

東京都小金井市梶野町 5-4-1

たましん中小企業景況調査報告

多摩信用金庫では、多摩地域で事業を営む約 1,000 先の企業にご協力をいただき、事業の動向に関するアンケート調査を実施しています。今回は、2024 年 12 月期の景況についてご報告します。

調査概要

	従業員数	全業種		製造業		卸売業		小売業		サービス業		建設業		不動産業		
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	
1. 調査実施日	2024 年 10 月 31 日～11 月 28 日	1～4 人	328	32%	57	19%	27	32%	94	57%	60	26%	43	26%	47	55%
2. 調査方法	調査員による聞き取り調査	5～9 人	203	20%	48	16%	22	26%	30	18%	39	17%	49	29%	15	18%
3. 調査対象	多摩信用金庫のお取引先 1,040 先	10～19 人	174	17%	81	26%	15	18%	11	7%	20	9%	34	20%	13	15%
4. 回答先数	1,038 先	20～29 人	95	9%	34	11%	7	8%	11	7%	20	9%	17	10%	6	7%
5. 回答先内訳	右表のとおり	30～39 人	58	6%	21	7%	2	2%	6	4%	18	8%	10	6%	1	1%
		40～49 人	36	3%	14	5%	1	1%	0	0%	14	6%	7	4%	0	0%
		50～99 人	92	9%	33	11%	6	7%	13	8%	33	14%	5	3%	2	2%
		100 人～	52	5%	18	6%	5	6%	0	0%	26	11%	2	1%	1	1%
		合計	1,038	100%	306	100%	85	100%	165	100%	230	100%	167	100%	85	100%

業況DI

業況DIとは、自社の業況が「良い」と回答した企業の割合から、「悪い」と回答した企業の割合を引いた値である。プラスであれば、現在の業況を「良い」と認識している企業が多いことを意味している。(ただし、「季節調整法」という手法を用いて、DIの季節的な傾向を除いている。)

今期の全業種業況DIは、前期より1ポイント下降の2となり、前期と比べてわずかに景況感は悪化した。

業種別に見ると、建設業が7ポイント上昇の18と上昇幅が大きく、サービス業と不動産業についても景況感は小幅改善した。一方で、製造業が7ポイント下降のマイナス5となり、2023年3月期以来のマイナス圏となった。また、卸売業・小売業についても、2四半期連続で悪化しており、業種間で差が生じる結果となった。

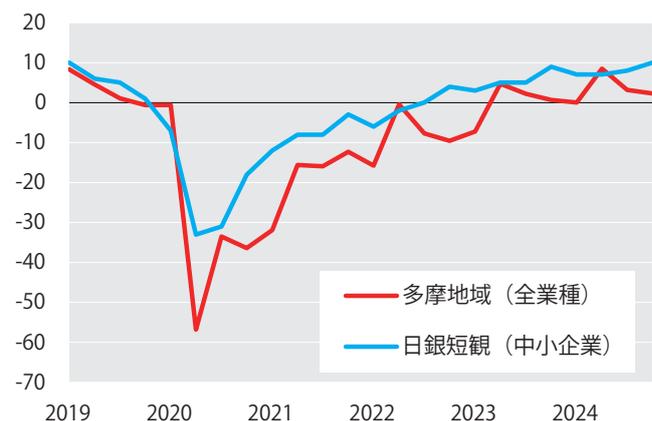
規模別に見ると、中規模企業では3ポイント下降の12、小規模企業では1ポイント上昇のマイナス6となった。

なお、来期の全業種業況DIは、今期より2ポイント上昇の4となる見通しである。

※ 本調査では、製造業・建設業は従業員20人以上の企業を中規模企業、卸売業・小売業・サービス業・不動産業は従業員5人以上の企業を中規模企業と定義している。

	2024年 6月期	2024年 9月期	2024年 12月期	変化幅	2025年 3月期 (見通し)	変化幅
全業種	9	3	2	-1	4	+2
中規模	23	15	12	-3	13	+1
小規模	-4	-7	-6	+1	-5	+1
製造業	7	2	-5	-7	2	+7
中規模	25	13	6	-7	9	+3
小規模	-5	-6	-12	-6	-3	+9
卸売業	10	2	1	-1	1	0
中規模	16	8	9	+1	10	+1
小規模	-7	-9	-19	-10	-17	+2
小売業	3	-4	-8	-4	-2	+6
中規模	26	13	6	-7	11	+5
小規模	-14	-16	-18	-2	-12	+6
サービス業	9	5	7	+2	2	-5
中規模	16	13	10	-3	9	-1
小規模	-8	-17	-3	+14	-17	-14
建設業	16	11	18	+7	15	-3
中規模	40	34	43	+9	43	0
小規模	7	3	10	+7	6	-4
不動産業	11	6	8	+2	5	-3
中規模	29	23	17	-6	16	-1
小規模	-4	-7	-1	+6	-4	-3
日銀短観 (中小)	7	8	10	+2	6	-4

業況DIの推移



お客さまのコメント

製造業

- ・ 工場の機械の自動化が順調に進んでおり、今後も自動化に向けた設備投資を実施していきたい。(八王子市、端子盤製造)
- ・ 近年、脱炭素化がクローズアップされるようになり、自社でも積極的に関与していきたいと考えている。
(東大和市、紙器・包装資材製造)
- ・ 売上は増加しているものの、外国人労働者の人件費や運送費高騰により、収益が減少傾向となっている。
(八王子市、食料品製造)

卸売業

- ・ 輸送ルートの見直し等を行うことで無駄を省いていき、利益率を向上させていきたい。(立川市、生花卸売)
- ・ 近年冬でも暖かい日が多く、燃料の売上に影響が及んでいる。(あきる野市、ガソリン等の燃料卸売)
- ・ ハイブリッド車に買い替えたり、LEDに切り替えたりと、脱炭素化に取り組んでいる。(多摩市、電子部品卸売)

小売業

- ・ 人手不足のため、すきま時間にできる単発の仕事を紹介するスポットワークを利用している。(府中市、コンビニエンスストア)
- ・ 原材料価格上昇分は販売価格に転嫁できているが、今後の光熱費や為替の動きにも注意していきたい。(立川市、鯉節販売)
- ・ 商店街のお店に足を運ぶお客さまの数が減ってきている。(立川市、茶・海苔販売)

サービス業

- ・ タクシーを利用するお客さまが増加しており、売上も順調に推移している。(八王子市、タクシー会社)
- ・ 来期についても売上は安定して確保できる見通し。新年度の園児募集も1時間で満員となった。(東村山市、幼稚園経営)
- ・ 回収品受入の値上げの影響で収益を圧迫しており、経費削減策を検討している。(三鷹市、塵芥収集清掃)

建設業

- ・ 新築戸建てが動いていないため、アパートやマンションへ受注をシフトしている。(八王子市、足場工事)
- ・ 新築も中古も価格が高騰しているため、比較的安価なリフォームの需要が上がっている。(武蔵野市、一般住宅建築)
- ・ 原材料価格の高騰と職人不足が業界全体の課題となっており、当社においても受注があっても対応しきれない状況。
(東久留米市、左官工事)

不動産業

- ・ 引き続き仕入価格が高騰しており、戸建てが売れなくなってきている。(武蔵村山市、不動産代理・仲介)
- ・ 不動産価格は上昇し続けており、個人と法人ともに購入のハードルは上がっている。(多摩市、不動産)
- ・ 職人不足により工事のスケジュールがタイトであり、建築計画が後ろにずれてきている。(立川市、建売)

貸会議室

のご案内

立川市曙町 2-8-28
TAMA MIRAI SQUARE
3階

運営：
株式会社
多摩情報メディア
TEL：042-526-7750
<https://www.rental-tjmedia.jp>



me:rise
TACHIKAWA

Conference Room

お客さま

景気動向 インタビュー

株式会社調布清掃

かじわりょうすけ
代表取締役 梶原良介氏

株式会社調布清掃は、調布市をはじめ多摩地域の自治体の委託による廃棄物や資源物の収集運搬をメインに、企業や個人の粗大ごみ、廃棄物などを扱っている。1953年の創業以来、生活環境の保全や公衆衛生の向上に貢献するため誠実に地域と向き合い、市民の暮らしを支えてきた。清掃ボランティアへの参加など地域活動も大切にしている。

地域のインフラとして

当社には本社を含めて5つの拠点があり、収集運搬以外にも、廃棄物処理施設の運営や道路の清掃、下水道の清掃維持管理なども請け負っています。全ての人の生活になくてはならないインフラを支える仕事であり、どんな時でも業務を止めることはできません。コロナ禍では、社員の感染による人員不足や、家で過ごす時間が長くなったことによる家庭ごみの増加への対応に苦労し、担当の垣根を越えたチームワークで何とか乗り越えました。

物価高騰による影響ももちろん受けています。ガソリン代から社員のユニフォームまで、ありとあらゆるものが高騰している状況です。当社でも数年前から料金改定に取り組み、収益構造を変える努力をしてきました。その結果、他社に先駆けて給料のベースアップなどの待遇改善につなげることができています。

選ばれる会社であるために

当社のごみを集めるだけではなく、地域の方々のお役に立ったり、喜んでもらいたいという気持ちを持って、日々収集車を走らせています。地域住民や学生、子どもたちとの交流も積極的に行ってきました。ボランティア活動のほかに、中学生の職場体験の受け入れや、近隣の



エコプラント TAMA は多摩支店内に開設された



黄色いラインが特徴の収集車

保育園との交流、また小学生が描いた絵を家庭ごみの収集車に貼り、その小学生が居住する地域の収集を行っています。あまり注目される仕事ではありませんが、こうした活動の中でいただく地域の方々からの声や反応は、社員たちの大きな励みになっています。

社員数は現在300名を超え、その多くが現場で活躍しています。各拠点には休憩スペースやシャワー室を設置するなど、働きやすい職場づくりを意識してきました。時には、本社の社員が大鍋で料理を振る舞うなど、社員同士も互いに思いやりを持って働いています。人材採用がますます厳しさを増している昨今、選ばれる会社にならなければいけないと強く感じています。

より環境に配慮したリサイクルを進めていく

収集運搬事業はすでにマーケットとして成熟している一方で、この先人口が減少していく中でも、資源の再生やリサイクルといった取組みは、より重要視され求められるものです。当社では、主業務である収集運搬を通じて、これらにも積極的に取り組み、環境にやさしい社会の実現に貢献していきたいと考えています。2023年には、近年注目を集めているケミカルリサイクル（プラスチックを化学的に分解し、製品の原料などに再利用する方法）を目指す産業廃棄物中間処理場「エコプラント TAMA」を多摩支店内に開設しました。今後は、委託事業にとどまらず、新事業の創出や、業務のDX化などを目指して、企業価値を高めていきたいです。

会社名：株式会社調布清掃
代表者：梶原 良介
本社所在地：東京都調布市深大寺東町 5-8-1
業種：ごみ収集運搬業
インタビュー：2024年12月10日

特別調査 2025年の経営見通し

今回の特別調査では、2025年の経営見通しについてのアンケート調査を実施しました。

2025年の景気見通しについて尋ねたところ、「良い^{*}」と回答した企業は11.0%、「悪い^{*}」と回答した企業は38.2%となった(図1)。以前の調査(2024年見通し・2023年見通し)と比べると、「悪い」と回答した企業が減少しており、特に2年前の調査からは29.7%ポイントの減少となった。

次に、2025年の自社の業況見通しについて尋ねたところ、「良い」と回答した企業は14.6%、「悪い」と回答した企業は24.5%となり、「悪い」と回答した企業が上回る結果となった(図2)。業種別にみると、建設業のみ「良い」と回答した企業が「悪い」と回答した企業を上回っており、他の業種に比べ明るい見通しを持った企業が多いことがわかった。

図1. 景気見通し

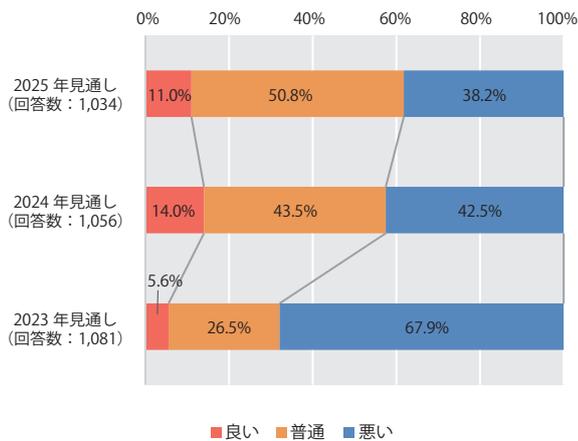
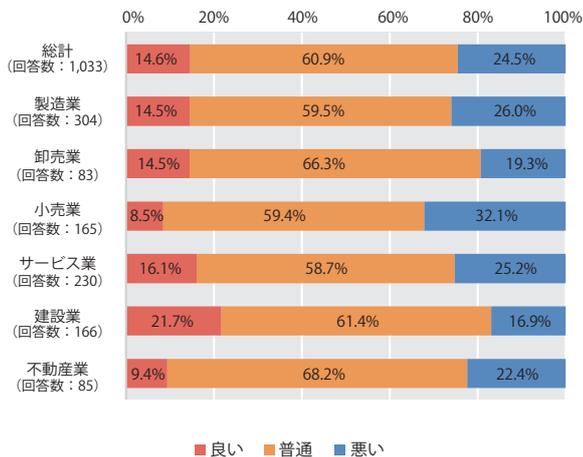


図2. 自社の業況見通し(業種別)



続いて、2025年の売上額伸び率の見通しについて尋ねたところ、52.5%と半数以上の企業が「変わらない」と回答した(図3)。「増加」と回答した企業は33.1%、「減少」と回答した企業は14.4%となり、「増加」と回答した企業が上回る結果となった。

最後に、自社の業況が上向き転換点を尋ねたところ、「すでに上向いている」と回答した企業は、1年前の調査より0.9%ポイント減少し、わずかに下回る結果となった(図4)。また、「業況改善の見通しは立たない」と回答した企業が増加していることから、先行きに対する不透明感が強まっている結果となった。

※良い…「非常に良い・良い・やや良い」の計、
悪い…「やや悪い・悪い・非常に悪い」の計

図3. 2025年の売上額伸び率見通し

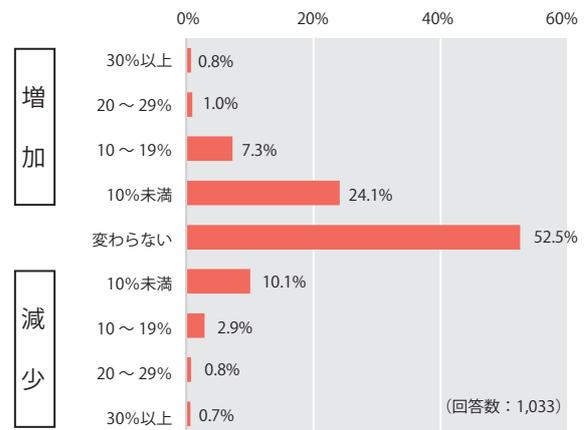
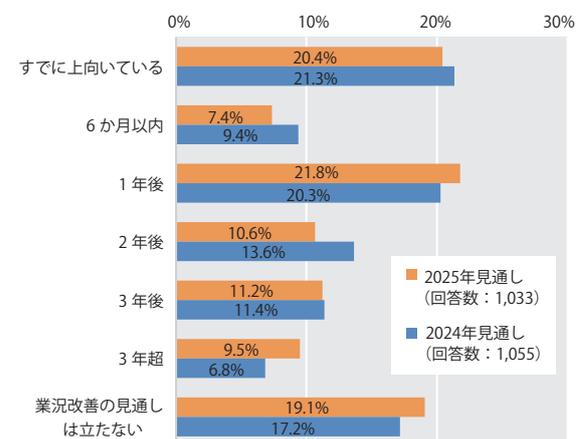


図4. 自社の業況が上向き転換点



多摩の統計データ

	面積 (km ²) 2024年10月	人口 (人) 2024年12月	世帯数 (世帯) 2024年12月	民営 事業所数 (所) 2021年	民営事業所 従業者数 (人) 2021年	製造品 出荷額等 (百万円) 2022年	卸売業小売業 商品販売額 (百万円) 2020年	農業産出額 (千万円) 2022年
東京都	2,199.94	14,007,135	7,685,319	628,239	9,592,059	8,283,779	176,190,281	2,171
特別区	627.51	9,734,337	5,530,460	503,699	8,114,913	3,549,411	168,563,606	350
多摩地域	1,159.81	4,249,469	2,140,798	122,541	1,467,276	4,732,223	7,609,939	1,463
八王子市	186.38	559,321	284,918	17,390	224,135	492,087	1,252,561	140
立川市	24.36	186,293	97,744	7,692	115,163	76,528	810,035	106
武蔵野市	10.98	148,182	79,298	7,717	83,709	9,155	342,798	26
三鷹市	16.42	190,623	97,753	4,957	57,347	33,383	216,528	66
青梅市	103.31	129,142	66,016	4,243	46,589	173,181	347,722	33
府中市	29.43	260,948	131,327	7,330	100,370	838,705	563,635	76
昭島市	17.34	115,591	58,026	3,330	47,809	421,702	269,321	15
調布市	21.58	239,530	124,709	6,666	78,080	46,012	418,216	44
町田市	71.55	430,398	208,830	11,694	135,702	108,599	653,206	81
小金井市	11.30	125,181	63,486	2,866	28,594	11,233	103,593	21
小平市	20.51	196,875	97,157	4,360	56,966	129,412	206,568	74
日野市	27.55	188,374	94,505	4,309	54,911	229,395	175,711	40
東村山市	17.14	151,848	76,120	3,633	37,043	59,912	139,470	68
国分寺市	11.46	129,538	64,674	3,413	33,840	25,509	121,403	53
国立市	8.15	76,135	39,858	2,637	27,089	4,488	240,146	14
福生市	10.16	56,546	31,345	1,608	15,426	19,641	86,159	2
狛江市	6.39	82,099	43,240	1,916	16,248	13,527	68,970	18
東大和市	13.42	85,021	41,130	2,327	21,157	79,166	106,517	16
清瀬市	10.23	74,995	37,496	1,736	18,109	19,303	42,097	80
東久留米市	12.88	116,359	56,935	3,075	30,197	162,651	188,694	79
武蔵村山市	15.32	70,709	33,133	2,297	25,536	185,093	121,315	138
多摩市	21.01	147,580	75,762	3,603	63,880	26,558	486,743	8
稲城市	17.97	93,940	43,277	2,216	24,846	26,148	84,722	69
羽村市	9.90	54,184	26,782	1,783	23,996	745,208	101,247	15
あきる野市	73.47	79,303	37,560	2,191	20,706	43,873	57,209	67
西東京市	15.75	206,181	103,012	4,792	47,292	31,500	260,152	44
瑞穂町	16.85	32,035	15,539	1,655	20,516	656,806	107,289	57
日の出町	28.07	16,089	7,566	696	9,140	61,359	36,892	13
檜原村	105.41	1,929	1,104	167	875	947	113	0
奥多摩町	225.53	4,520	2,496	242	2,005	1,141	907	0
島しょ	412.61	23,329	14,061	1,999	9,870	2,145	16,733	358
出典	国土地理院「全 国都道府県市区 町村別面積調」	東京都「住民基 本台帳による世 帯と人口」	東京都「住民基 本台帳による世 帯と人口」	総務省・経済産 業省「経済セン サス-活動調査」	総務省・経済産 業省「経済セン サス-活動調査」	経済産業省「経 済構造実態調査」	総務省・経済産 業省「経済セン サス-活動調査」	農林水産省「市 町村別農業産出 額（推計）」

本誌に対するご意見・ご感想をお寄せください。

発行日 2025年1月27日

発行 多摩信用金庫 経営戦略室 地域経済研究所
〒190-8681 東京都立川市緑町3-4

TEL 042-526-7737 FAX 042-526-6161

URL <https://www.web-tamashin.jp/rire/>



『多摩けいざい』は、WEBと併せて
ご覧いただくのがお勧めです。
本誌には載せきれない様々な
データやレポートのほか、バック
ナンバーもご覧いただけます。